

特集

育もう 海人地域 みんなの未来

今年10月、天皇后両陛下の御臨席のもと「第37回 全国豊かな海づくり大会福岡大会」が開催されました。私たちが身近にある海や川などの雄大な自然。これらは、私たちの財産として大切に将来へと引き継いでいかなくはなりません。今大会の舞台である筑前海、有明海、豊前海の3つの海、そして筑後川などの内水面では、各地域で、このかけがえのない財産を将来に繋いでいくための活動が行われています。



第37回 全国豊かな海づくり大会

～育もう 海 人 地域 みんなの未来～

福岡大会

関連行事

県内各地で関連行事を開催

県内5つの会場で関連行事が開催されました。稚魚の記念放流や、県産農林水産物の販売、福岡の海の幸が味わえる「ふくおか海の幸グランプリ」など、各地域の特徴を生かしたイベントを開催し、各会場とも多くの人たちで賑わいました。



【宗像会場】豊かな海づくりフェスタ in むなかた



1/福岡海洋少年団の皆さんも会場に駆け付け、漁船海難遺児などに対する支援を呼びかけた 2/会場のステージでは、地元の小中学生による吹奏楽をはじめ、さまざまな出し物が披露された

【筑前海会場】福岡県農林水産まつり



3/「ふくおか海の幸グランプリ」では、各店舗が自慢の海の幸を振る舞い、来場者による投票でグランプリが決定した 4/「ちりめんモンスターを探せ」のブースでは、ちりめんじゃこに混じった小さな生き物を虫眼鏡を使用して必死に探している皆さんの姿が

【豊前海会場】うみてらす豊前 鮮魚まつり



7/マグロの解体ショーでは、解体師の素晴らしい魚さばきに、会場中が歓声に包まれた 8/タッチングプールでは、ウナギのつかみ取りが行われ、参加した子どもたちは、ヌルヌル滑るウナギに悪戦苦闘

【有明海会場】柳川よかもんまつり



5/海づくり大会PRブースでは、福岡の海の生物や漁法に興味津々な子供たちや大人の姿が 6/会場には、柳川市長をはじめ、多くの関係者の皆さんがイベントを盛り上げるために駆け付けた

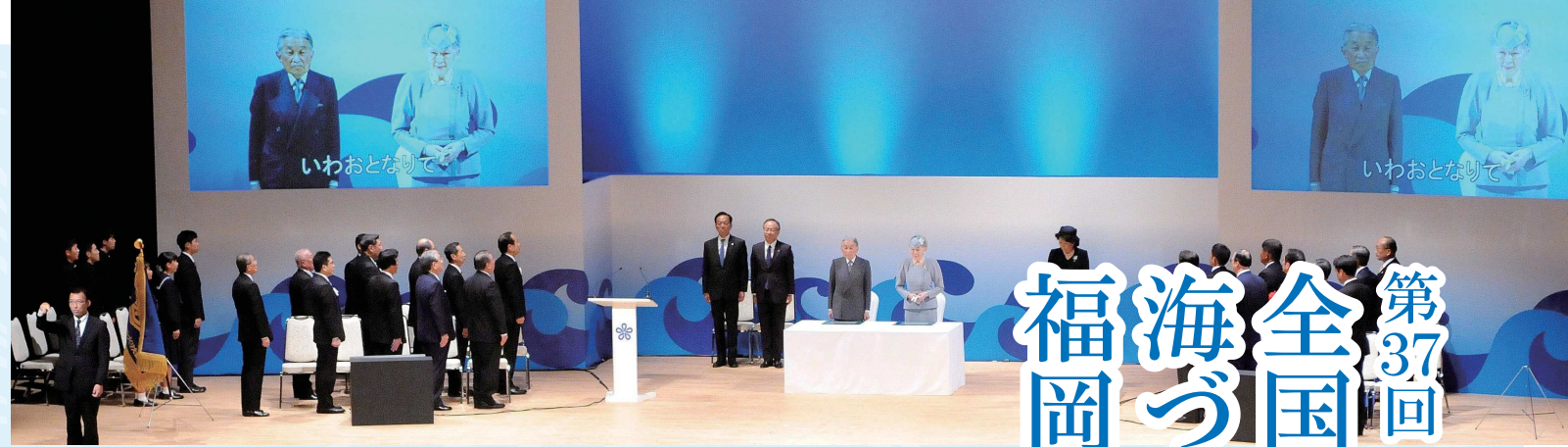
【内水面会場】みどりの里 秋穫フェア



9/長さ、面積共に九州最大規模を誇る筑後川にて行われた稚魚の記念放流では、オイカワ(ハヤ)が放流された。放流前には、放流魚の生態などについてしっかりと学んだ 10/豊かな自然の中で、大きく成長できるようにと願いを込めて放流

天皇皇后両陛下が平成29年7月九州北部豪雨で大きな被害を受けた朝倉市を御訪問

10月27日、両陛下は福岡空港に到着された後、九州北部豪雨で甚大な被害を受けた朝倉市を御訪問されました。朝倉市では、小川知事から被災状況を御聴取された後、被災者一人一人に、そして災害対応尽力者に心のこもったお見舞いと励ましの言葉を掛けられました。今回の被災地御訪問は、両陛下の強いお気持ちにより、当初の予定を一日早めて御来県され実現したもので、被災者、関係者にとって大変心強いものとなりました。



第37回 全国豊かな海づくり大会 福岡大会を開催



大会キャラクター:エコトン

水産資源の保護・管理と海や河川の環境保全の大切さを広く伝えるとともに、漁業の振興と発展を図ることを目的に、毎年各地で開催されている全国豊かな海づくり大会。第37回目となる今大会は宗像市をメイン会場に、10月28日(土)、29日(日)の2日間にわたりますさまざまな行事が実施されました。多くの自然に恵まれた福岡県は、それぞれ特色のある3つの海に囲まれて、筑後川、矢部川など内水面においても、各水域の特性を生かした多様な漁業が営まれています。今大会を契機に、本県が誇る水産物を県内外に発信するとともに、豊かな海づくりに欠かせない環境保全活動などに一層取り組んでいきます。

※開催を予定していた海上歓迎放流行事は荒天のため中止

式典

式典行事
会場となった宗像ユリックスでは、

映像による本県の魅力や漁業の紹介のほか、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、海川・水産業をテーマとした最優秀作文の発表、若手漁業者によるメッセージ発表などを行うとともに、豊かな海を次の世代に引き継ぐことについて、大会決議が行われました。



左/最優秀作文を発表する宗像市の野田光輝さん。「ぼくのたいせつな海や川」と題した作文には、自分の実体験から海や川を大切にしたいという気持ちがつづられていました
右/稚魚などの御手渡しでは、天皇陛下からクロアワビ、アサリが、皇后陛下からはノリ、オイカワがそれぞれ漁業関係者に手渡されました

福岡海づくりメッセージ

海という豊かな自然を未来へ繋ぐ担い手として、子どもたちや県内の若手漁業者などが豊かな海づくりに向けたメッセージを発表しました。



資源管理、漁場環境の保全活動に力を入れ、消費者に海の素晴らしさを知ってもらえるようさまざまな取り組みを行い、豊かな筑前海の恵みが次世代へ引き継がれるよう力を尽くします。

宗像漁業協同組合組合員
ごんたこうすけ まりこ
権田幸祐・恵理子夫妻

豊かな海を守るため、先輩方が築き上げたカキ養殖をさらに発展させ、さまざまな活動を通じて漁場や資源を守り、豊饒の海・豊前海を次の世代へと引き継いでいきます。

豊前海北部漁業協同組合組合員
えいひでとし ゆかり
江口英利・由加里夫妻

おいしい「福岡有明のり」を皆さまに届けられるよう、ノリ養殖の研究を進めるとともに、有明海の漁業を支える活動を積極的に行い、子どもたちに、宝の海・有明海を引き継いでいくことを誓います。

有明海区研究連合会会長
すきたかよし なおこ
須崎孝義・直子夫妻

手旗信号やロープワーク、カヌー、水泳などさまざまな訓練を行っています。また、近くの海岸でいつもゴミ拾いをします。いつも、訓練させてもらう、そして私たちが育ててくれる海をこれからも守っていきます。

(左から)ふかまちあやの
深町彩乃さん、
ますみ ぎんじろう たけうちけん
増美 銀次郎さん、竹内蓮さん



上/今年は、PM2.5などが海に与える影響などの世界的環境問題を映像で発表。また、地元の漁師なども参加するシンポジウムも開催された 下/宗像国際環境100人会議実行委員会 事務局長 養父信夫さん。手元には、竹林の伐採時の竹を利用して作成した漁場再生のための募金箱

環境を考える

宗像国際環境100人会議

「海の鎮守の森」構想を発信

平成29年、世界遺産登録を受けた「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群。古くから、沖ノ島と信仰を大切に守り続けている宗像の海が、海藻の減少や漂着ごみなどによる環境問題に晒されています。こうした問題を、地元から発信し、支援できることを考えよう、と4年前から活動が始まった「宗像国際環境100人会議」。

宗像市や地域づくりに関連する団体、大学研究者、企業などが中心となり活動しています。今年「海の鎮守の森」構想と銘打ち、海をメインテーマに、地球環境問題について協議するフォーラムや、中高生を中心に市民参加型のフィールドワークを開催。「環境問題に対する取り組みは、長い年月をかけて続けていくことが大事。だからこそ、地元でしっかりと実行していきたいかなければならないと思っています」と事務局長の養父信夫さん。この取り組みは次の世代へしっかりと引き継がれていきます。



環境保全に取り組む団体

むなかた「水と緑の会」

宗像市の環境保全を推進する「むなかた水と緑の会」。中でも、市内の全小学4年生を対象に開催される水辺教室は、約30年続く活動の一つです。宗像市を流れる釣川の源流から河口まで、実際に現地へ移動し水の循環を知る貴重な授業です。地元中高生を対象とした「宗像国際育成プログラム」ではガイドを担当。「宗像の財産でもある豊かな自然に関心をもってもらえれば」と会長の福島敏満さんは話します。



上/川に入り生き物や植物に触れ、子どもたちも生き生きとした表情に 左/「子どもたちが興味深く話を聞く姿がうれしい」と福島さん

県立水産高等学校 アクアライフ科

福津市の海に囲まれた県立水産高等学校。「自分たちでできることで、地元へ恩返しを」と8年前から始めた生徒たちの活動は、海に必要な栄養分が多く流れ込むように、その供給源となる森林を整備し、竹林整備から出た竹を有効活用することでした。試行錯誤を繰り返したどり着いたのが竹製の魚礁づくりです。宗像国際環境100人会議では、竹魚礁の成果などを生徒たちが自ら発表し、参加者から高い評価を得ました。




上左/竹魚礁づくりは、授業や放課後を利用して行っている 上右/海底に沈めた竹魚礁は魚の産卵場所や隠れ家となっている 下/アクアライフ科の皆さんと主任教諭・天山欣史先生

海のはたらき

多くの恵みをもたらす豊かな海に

栄養たっぷりの水は、海に流れ込み、海藻を育て、藻場を作ります。藻場は、多くの生物の餌場、隠れ家、産卵場となり、海の生態系で大きな役割を果たしています。近年、ゴミの流入や海藻の減少なども見られるため、漁業者を中心に、海底ゴミの撤去や藻場の保全活動を行っています。



漁業者は、漁場環境改善に取り組むだけでなく、次代を担う子どもたちにその重要性を伝える活動も行っています

川のはたらき

生きるために必要な水を送り出す

森で作られた栄養分を蓄えた水は川へと流れ込み、そこに生息する多くの生物によって、さらに浄化されます。川は、私たちの生活に欠かせない飲み水や農業用水などを供給してくれると同時に、多くの生態系を育みます。これらの豊かな水は、海へと運ばれ、さらに多くの生命を育てていきます。




生物が住みやすい環境にするために、地元住民などの協力により、河川の清掃や除草などの環境改善活動を行っています

森のはたらき

質の良い水をつくり、蓄える

たくさんのお木々が育つ山。この木々の落ち葉は微生物たちにより分解され、腐葉土となります。腐葉土が雨をしっかりと吸収し、雨に含まれるゴミや不要な物質を取り除き、窒素やミネラルなどの栄養分を蓄えた水が作られます。この栄養たっぷりの水は地下水となり、やがて川を形づくらせます。



竹林は放っておくと他の木々の成長を妨げ、生物たちの生態にも影響を与えてしまうため、定期的に伐採し森の環境づくりを行っています